

ネコが動き出した



低学年は保護者同伴で参加

プログラミング教室初開催 伊野小・朝陽小児童が参加

八月四日〜六日、伊野小学校を会場にプログラミング教室が開催され、伊野小児童と朝陽小児童30人が参加してプログラミングの基礎を学んだ。主催したのは「未来こい!ネット」教育部会と一般社団法人「チエノワ」(代表理事・野宗輝邦)。講師を務めたのは東地区在住の船越雄太さんら5人。

プログラミング教育必修

プログラミング教育が小中学校で必修化され、昨年度、出雲市内の小中学校には児童生徒1人1台のタブレットが配備された。「論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成」が目的だが、教科書や特設の時間もなく、学校現場では、どのような教育実践を進めるか、試行錯誤が続いている。

今回は、プロのプログラマーが「スモウルビー」というアプリを使って指導した。インターネットからダウンロードできるので家庭でも試してほしい。

この通信は伊野地区自治協会HPでご覧になることができます。

タブレット画面上にネコのキャラクターが登場する。このネコに様々な命令を与えて動きをつくることから始まった。「一〇歩前に進む」「進み続ける」「端にぶつかったら、ミャ〜と鳴いて十五度右に回る」など、次々と命令を追加していく。画面上にネズミも登場させ、ネコとネズミの追いかけてこもできる。背景を変えることもできる。宇宙空間でネコを動かしている子どももいた。

子どもたちはキャラクターを動かすのが楽しくてしようがない。「どんな動きを作るのか考えるのが楽しい」(竹内一惺)

「空き家の利活用」「農山漁村地域の発展」「リノベーションの推進」を目的として今年6月に設立された。地域で活動する個人・想いを持つ個人とつながり、コミュニティをいという大きな「輪」をつなげるのがチエノワの役割だ。とくにIT・Webの領域で、地域の活動を支援する取組を行う。

社団法人「チエノワ」